

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん

きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん きりすこどもえん



2018年度 年主題「イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で」

1・2歳児 4月主題 「つつまれる」

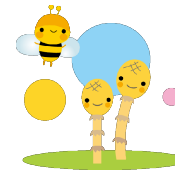
月のねがい

- ◎神さまの愛に包まれ守られていることを知る
- ◎保育者に守られ、生活や遊びを経験してゆく
- ◎1人ひとりの育ちを大切にされていることがわかり安心する

3・4・5歳児 4月主題 「包まれる」

月のねがい

- ◎神さまの愛に包まれていると感じながら過ごす
- ◎新入児も進級児も不安やほりきりを受け入れられて、新しい生活を始める
- ◎保育者と保護者の信頼の中で安心して育つ



見て、見てあおぼうしだよ

卒園生を送り出したのも束の間、また、慌ただしく新学期の準備に入った4月。4月2日には、2号3号のお友だちが元気に登園してきました。それぞれ一学年づつ進級した子どもたちです。新しい靴箱、新しいロッカー、新しいマーク、そして、新しいカラー帽子を自分たちで見つけてワクワクの様子です。

あい組からのぞみ組に進級した子どもたちは、カラー帽子も黄色から青色に変わり、新しいピカピカの帽子をもらって大喜びです。Yちゃん朝の片付けを済ませ、青帽子をもらって園庭に飛び出してくるなり、「わたし、今日からあおぼうしだよ！見て！」と嬉しそうに報告に来てくれました。しばらく遊んでまた戻ってきて、「今日からあおぼうしだよ！」とまたまた報告。この日、Yちゃんからこの嬉しい報告を何十回も聞かされました。Yちゃんにとってそれほど嬉しい事だったので。自分の喜びを言葉と身体で表現してくる子どもたちは本当に素晴らしいと感じた瞬間でした。

4月の月の願いに「新入児も進級児も不安やほりきりを受け入れられて新しい生活を始める」とあります。そうです、喜びやほりきりとは裏腹に不安もあることを頭に入れて、ありのまま子どもたちを迎え入れ、新学期を始めて行きたいと思います。保護者の皆様もこの新学期という節目を、お子さんと一緒に喜び、心に寄り添いながら過ごしていただければと思います。そして、共に子どもたちの健やかな成長を願いつつ、園と家庭が連携して歩んでいけますよう願っております。今年度も何卒宜しくお願いします。

園長 園師 愛

今月の聖句 「わたしは、よみがえりです。いのちです。」 ヨハネ 11:5

2018年4月1日はキリスト様の復活を記念する日です。すべての人が死に向かっている人生の旅、行き着くところはいつか死ぬということ。人は死を忌み嫌いかつ恐れています。でも、心配しないでください。イエス・キリスト様が人間に復活があることをはっきり示してくださったのです。復活を信じて希望を持つ者には大きな福音です。

さて、種子島シオン学園がめいろうこども園、きりすこども園を立ち上げてちょうど60年を迎えました。あらたな61年目の始まりにあたって、園章のいわれについて書きたいと思います。中心の「幼」は園児の皆さん、アルファ「」とオメガ「」のギリシャ文字を組み合わせた図形が上下左右あるいは、東西南北から幼の字を取り巻いています。アルファ「」はイロハの「イ」にあたり「はじめ」を、「」オメガは「ン」で「終わり」の意。とには特別な意味があります。神はご自分のことを「我はアルファなりオメガなり」「初めなり、終わりなり」といわれたのです。



したがって、園章は神様が園児を東西南北すべての方向から見守り支えておられるという意味です。
前理事長 池田公榮



異動のお知らせ

渡邊美和保育教諭は4月1日付けでめいろうこども園に異動となりました。短い期間でしたが、大変お世話になりました。姉妹園での働きですので、今後ともよろしくお願ひします。

4月の行事予定

| | |
|---------|----------------|
| 9日(月) | 始園式(1号午前保育) |
| 10日(火)~ | 1号新入園児慣らし保育 |
| 14日(土) | 入園式・新年度クラス会 |
| 16日(月) | 一日保育開始(1号新入園児) |
| 27日(金) | 弁当日 |
| その他予定 | 田植え(年長児) |

5月の行事予定

| | |
|--------|-------------|
| 7日~15日 | 家庭訪問(3才以上) |
| 8日(火) | 交通安全教室 |
| 10日(木) | 弁当日 |
| 11日(金) | 誕生会(4・5月生れ) |
| 19日(土) | 親子遠足・父母会総会 |

キリスト教保育とは

乳幼児期は人間の生涯の基礎が形成される時期で、この時期に培われたものが生涯の生き方の基盤となると言われています。

この大切な時期の子どもたちの成長に関わりを持つ保育者として、使命の重さを思わずに入られません。

キリスト教保育では、子どもも大人も神によって創造され、生命を与えられた、一人ひとりがかけがえのない存在であり、神の恵みの中に生かされていると考えられています。

目に見えない神の愛を子どもたちに知らせるのは大変難しいことですが、キリスト教保育を通して、見えない神の恵みを感じ、神の導きに信頼して幼児なりの思いを持つことができるようになるのです。

乳幼児期は親や保育者のあたたかな愛ある養護を受けることによって、信頼感が芽生え安定します。このような安定感、集団生活での友だちや周囲の大人たちとの人間関係にも影響し、人に愛され受け入れられていることによって、互いに愛し合う交わりの世界を経験し、神の愛を知る素地が養われていきます。

キリスト教保育の目的は、神に愛されている自分を知り、神の愛に応答して生きるものとなると共に、他者もまた神の愛される存在であることに気づき、よき隣人として生活できるようになることであり、「生活のすべてを通して伝えられていく」ということができます。

抜粋

『新・キリスト教保育者必携』より



幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

改訂 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

本年4月1日から「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂され施行されます。今回初めて就学前までに獲得したい姿の方向性が示されました。

- 1 健康な心と体
- 2 自立心
- 3 協同性
- 4 道徳性・規範意識の芽生え
- 5 社会生活との関わり
- 6 思考力の芽生え
- 7 自然との関わり・生命尊重
- 8 数量・図形、文字等への関心・感覚
- 9 言葉による伝え合い
- 10 豊かな感性と表現



これは最終的な到達目標ではなく、あくまで方向性を示したものと捉えて下さい。日々の保育を通して、この姿の方向へ向かっているかを評価しつつ、保育の改善に活かしていくものです。「姿」とは、遊びや生活を通して現れる様々な様子のことでありますから、ある時点の「できた」「できない」を見るのではなく、ある程度のスパンで捉えるものだと考えています。小学校との連携の中で、引き継いでいただくものでもあります。



神さまの愛に包まれて 二〇一八年度

心地よい春風が、白や赤に咲き誇る園庭の花をそよがせています。木や花や遊具、そして園舎までもが、愛らしい子どもたちが来るのを楽しみにしているようです。ご入園、ご進級おめでとうございます。改めて縁と新しい縁を心から感謝し、子どもたちの健やかな育ちを共に願ひ、祈りを重ねていきたいと思ひます。昨年度は、節目の創立六十年を迎えることができて感謝でした。次の七十年を目指して、気持ち新たに、新しい一年を一同邁進していきたいと思ひます。

本年四月から、幼稚園教育要領、保育所保育指針、そして幼保連携型認定こども園保育要領が改訂され施行されました。その基盤となる概念は、目に見える、分かりやすい(認知的)能力を促進していくことより、子どもの気持ちや意欲など、実態を掴みにくい能力(非認知的)を重視する方向にあるようです。まさにキリスト教保育が大切に受け継いできた「見えないものに目を注ぐ」保育そのものではないかと思ひます。それ故に、自分たちの日々の実践を振り返り、常に評価を繰り返すことの大切さを再認識することができました。

本学園の建学の精神である「敬神愛人」「探求・感謝」には、人間形成の基礎を培うべく心を育てたいという願ひが込められています。遠い将来の準備ではなく、幼いときにこそ経験しなければならぬものがあるのではないのでしょうか。子どもたちが自分で発見するモノや動植物たち。考えながら創り出していく遊びの数々。不思議だなと感じること。明日もまたやりたいという意欲や探究心を何よりも私たちが守らなければなりません。そのために、保護者の皆さんにも、多くの場面で楽しんで関わっていただきたいと願ひしています。子どもの育ちには、「タイム・タンク・タイヘン」が必要だと考えています。保育活動や行事で味わう体験。未知の世界へ興味関心を寄せる探検。そして、少し大変なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズとともに育つてまいりましょう。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものでしょう。初めての環境は大人でも緊張します。何より「だじょうぶだよ!」という言葉が安心へと導きます。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と聖書にありますが、見えないものと与えて下さるこの環境の中で、愛に包まれて生かされていることを喜べる生活を共に目指していきます。あるがままの「自分」をしっかりと生きていけるよう祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添っていきたくと考えております。六十一年目を迎える本年度も、職員一同心を尽くして努力して参りますので、ご支援の程を宜しくお願いいたします。

園長